

## 保険薬局におけるがん患者へ寄り添うための取り組み

－「がん対話カフェ in 天神」の開催－

そうごう薬局 天神中央店

吉田 志保

### 【はじめに】

当店ではがん患者やその家族がリラックスした状態で、様々な想いや悩みを相談できるような場を提供するために、2013年3月より「がん対話カフェ in 天神」を毎月1回開催している。これまで開催したがん対話カフェでの症例を紹介する。

### 【取り組み】

2013年3月～2016年9月で開催した回数は35回、参加人数は患者・家族合わせて述べ33名であった。

〔症例1〕70代女性卵巣癌。術後TC療法を6コース終えて過ごしていたが、約8ヶ月後腹部・肺転移が発覚。手術不能と言われ家族にも言いたくないほどひどく落ち込んでいた。「もっと早く検査をしてくれていれば再発を早期に発見できていたのではないか」などの想いがあった。患者の想いを傾聴し治療に対する不安を取り除くことで現在は治療を前向きに実施しており奏功している。

〔症例2〕50代女性子宮体癌。がんが理由で仕事を解雇されており経済的な問題と、親の介護があるため抗がん剤による副作用が心配であるという理由で術後療法を拒否している。「自分の選択が間違っていないか」などの不安をもっていた。治療への理解を深めたうえで、患者にとって最も大切にしていることは何かを探ることで患者の気持ちを整理していった。これにより今後の過ごし方について迷いはなくなり、現在は定期検診のみで経過観察中である。

### 【まとめ】

がん対話カフェに参加する患者の悩みは様々であるが、初めは堅い表情であった患者たちの多くが、「胸につかえていたものがすーっと消えて楽になった」と笑顔で帰っていった。これは、薬剤師が患者の気持ちに寄り添いながら傾聴し、患者の不安や迷いを明確化することによって、患者が自らの感情・気持ちと向き合うことができたためと考える。限られた応対時間の中では自分の想いを話し尽くせない患者のためにも、このような場の提供は大切だと感じる（必要と考える）。さらに、患者をより深く知ることができ信頼関係を築くと共に、患者の背景を理解した上でその後の応対ができるため、薬剤師側のメリットも大きいと思われる。